

事業計画書目次

[環境創造局]

8款5項2目

(単位：千円)

計画書頁	事業名	令和4年度		令和3年度		増△減(4-3)		新規・拡充
		総額	一財+市債	総額	一財+市債	総額	一財+市債	
1	横浜市立動物園 管理運営事業	2,303,260	2,200,753	2,294,888	2,192,094	8,372	8,659	
2	動物収集事業	10,315	5,315	14,905	5,905	△ 4,590	△ 590	
3	繁殖センター 管理運営費	53,892	53,304	55,919	55,317	△ 2,027	△ 2,013	
4	希少動物 海外交流事業	75	75	860	860	△ 785	△ 785	
5	野生鳥獣対策事業	16,844	10,082	17,368	10,602	△ 524	△ 520	
6	動物園基金事業	10,244	5,243	10,271	5,270	△ 27	△ 27	
	計	2,394,630	2,274,772	2,394,211	2,270,048	419	4,724	

令和 4 年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	8-5-2-1
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費	<input checked="" type="checkbox"/> その他				
歳出予算科目	一般会計	8 款	5 項	2 目		
事業名称	横浜市立動物園管理運営事業					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				一般財源等	
		国	県	公園使用料	その他	市債	一般財源
令和4年度	2,303,260		1,600	97,693	3,214		2,200,753
補助事業 単独事業							0
令和3年度	2,294,888		1,600	98,161	3,033		2,192,094
増△減	8,372	0	0	△468	181	0	8,659

歳出	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
予 事業費	2,252,643	2,280,795	2,680,079	2,303,260	2,303,260	2,303,260
算 市債+一般財源	2,141,792	2,169,377	2,577,117	2,200,753	2,200,753	2,200,753
決 事業費	2,262,920	2,330,067	2,671,780			
算 市債+一般財源	2,160,933	2,218,649	2,570,508			

事業概要	よこはま動物園ズーラシア、野毛山動物園、金沢動物園、野毛山公園（動物園を除く。）及び金沢自然公園（動物園を除く。）を指定管理者（（公財）横浜市緑の協会）が一体的に管理運営することにより、来園者サービスの向上を図ります。							
事業開始年度	平成20年度							
根拠法令・方針決裁等	横浜市動物園条例、横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱、横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会要綱、横浜市動物園等の指定管理者の評価に関する要領							
事業目的・効果 (必要性)	横浜市立動物園は、都市公園法に基づく公共の福祉の増進に資するため設置された施設であり、博物館法に基づく教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に設置された博物館相当施設です。 生物多様性保全の重要性を人々に伝える自然との架け橋としての役割を担うとともに、動物たちを知り動物たちから感動を得ながら、いのちの大切さを学ぶ場を提供し、生きものと共生する文化の構築に貢献します。							
根拠・データ等	<ul style="list-style-type: none"> 平成18～22年度は、指定管理者として（公財）横浜市緑の協会がよこはま動物園ズーラシアの運営。 平成19年度までは、市が野毛山動物園と金沢動物園を運営。 平成20～22年度は、野毛山動物園と金沢動物園を指定管理者制度に移行し、3園一体管理に移行。 ※指定管理者：（公財）横浜市緑の協会 平成23～27年度は、引き続き3園一体管理で運営（第2期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会） 平成23～24年度に、外部委員会による動物園にふさわしい運営体制の検討の実施。 平成25年4月に、よこはま動物園ズーラシア「アフリカのサバンナ」を一部開園、平成27年4月に全面開園。 平成28年4月に、金沢動物園「オセアニア区」リニューアルオープン。 平成28～令和7年度は、引き続き3園一体管理で運営（第3期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会） 							
事業指標	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
入園者数（よこはま）	単位	目標	125	125	125	125	125	125
	万人	実績	98.3	75.4				
入園者数（野毛山）	単位	目標	70	70	70	70	70	70
	万人	実績	54.9	39.1				
入園者数（金沢）	単位	目標	33	33	33	33	33	33
	万人	実績	24.7	26.3				
事業スケジュール	3動物園にかかる下記業務 ・管理運営にかかる業務（通年） ・指定管理選定業務（～3月） ・事業評価業務（～10月） ・モニタリング業務（9月・2月） ・その他連絡調整（通年）							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称		4年度	3年度	差引(増減)	増減説明
	①	横浜市立動物園管理運営事業		2,303,260	2,294,888	8,372
	細事業合計		2,303,260	2,294,888	8,372	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	荒原 伸治	係長	澤井 利光	係	山本 顕
--------------------	----	-------	----	-------	---	------

令和 4 年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費 <input checked="" type="checkbox"/> その他				
歳出予算科目	会計	8 款	5 項	2 目	
事業名称	動物収集事業				

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳			一般財源等	
		国	県	諸収入	市債	一般財源
令和4年度	10,315			5,000		5,315
補助事業 単独事業						0
令和3年度	14,905			9,000		5,905
増△減	△ 4,590	0	0	△ 4,000	0	△ 590

歳出	平成30年度	令和元年度		令和2年度		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度		
予 算	15,655	9,610	15,585	12,000	12,000	12,000
市債+一般財源	5,655	5,610	6,585	6,000	6,000	6,000
決 算	11,117	5,610	7,625			
市債+一般財源	7,209	5,262	7,625			

事業概要	横浜市の3動物園の動物展示の維持及び種の保存に必要な血統更新のために、種の保全推進委員会で承認された保全収集計画に基づき、国内外の政府、自治体、動物園等と連携しての新規個体の収集と導入収集及び搬出などを促進し、動物園の魅力アップと種の保全事業を推進します。							
事業開始年度	随時継続							
根拠法令・方針決裁等	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律、動物の愛護及び管理に関する法律など							
事業目的・効果 (必要性)	<p>本事業の目的は、海外や国内での動物の導入や搬出を円滑に進め、動物園の事業目的の一つである種の保存事業を推進することにあります。</p> <p>動物の収集や搬入にあたっては、対象種の国内外の血統登録調整者や環境省、市民団体等との調整や交渉が必要不可欠です。そのため、海外については情報収集と調整のために国際会議への積極的な参加が必要となります。また、国内希少動物を動物園に導入し生息域外保全を進めるためには、環境省主催の会議や生息地調査に参加し保護のための行動実績を残しつつ、行政や保護団体、地元等との信頼関係を構築する必要があります。</p> <p>この事業を積極的に進めることによって、市立動物園による種の保存事業が推進されます。加えてSNS等により取り組みを積極的に発信することで常に進歩している市立動物園の実像を伝えることで市民の動物園事業への理解と来園者の満足度向上及び来園者数の増加が望めます。また、関連する教育活動やイベントを通じて同様の効果が望めます。</p>							
根拠・データ等	<p>＜動物搬出入実績（主なもの）＞</p> <p>元年度：ヤブイヌ譲り受け（英国から2件）、マレーバク繁殖契約（愛媛）、オオアリクイ繁殖契約（名古屋） チーター繁殖契約（東武）、スマトラトラ繁殖契約（南紀白浜）、ホウシャガメ譲受（到津）</p> <p>2年度：ドール（チェコ）、キノボリカンガルー（ドイツ）、ミヤコカナヘビ（上野）、ホウシャガメ（岐阜大） インドサイ（多摩）、ツシマヤマネコ（長崎、福岡から人口繁殖のための一時入出園等）、オカピ（上野へ）</p> <p>3年度（予定含む）：インドライオン（インド）、ウンピョウ（米国）、インドゾウ（豊橋からの帰園）、ドックラングール（タイ）、テングザル（インドネシア）、ハミルトンガメ（ドイツ）、アマミトゲネズミ（埼玉）</p> <p>＜調整実績＞</p> <p>元年度：東南アジア動物園協会総会出席、タイ王立動物園協会との協力協定締結</p> <p>2年度：世界動物園水族館協会総会（リモート）、東南アジア動物園協会総会（リモート）、豊橋市とのインドゾウ繁殖に向けた連携の協議等</p> <p>3年度予定：世界動物園水族館協会総会、東南アジア動物園協会総会、ライチョウ関連会議、ツシマヤマネコ関連会議（一部リモート）</p>							
事業指標	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
国際的な繁殖計画への参画	単位	目標	10	10	10	10以上	10以上	10以上
	種	実績	11	10				
国内外での希少動物保全のための調整	単位	目標	2	2	3	5	5	5
	件	実績	2	3				
	単位	目標						
	実績							
事業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 動物の補充・交換は、保全収集計画に基づき相手方との調整がつき次第実施します。 海外との収集活動は動物園組織の年次会議などに積極的に参加し、具体的な協議を進めます。 国内希少種の保全に関する政府及び関連団体等との情報交換や生息地の調査への参加を推進し、動物収集と保全活動への参画を推進します。 							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称	4年度	3年度	差引(増減)	増減説明
		① 動物収集事業	10,315	14,905	▲ 4,590
細事業合計		10,315	14,905	▲ 4,590	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	荒原 伸治	五十嵐 隆	森角 興起

令和 4 年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	8-5-2-2
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費 <input checked="" type="checkbox"/> その他					
歳出予算科目	一般会計	8 款	5 項	2 目		
事業名称	繁殖センター管理運営費					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳			一般財源等	
		国	県	諸収入	市債	一般財源
令和4年度	53,892			588		53,304
補助事業						0
単独事業						0
令和3年度	55,919			602		55,317
増△減	△ 2,027	0	0	△ 14	0	△ 2,013

歳出		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
予算	事業費	55,064	55,136	55,932	55,697	55,697	55,697
	市債+一般財源	51,082	51,049	55,343	55,109	55,109	55,109
決算	事業費	50,193	51,466	50,454			
	市債+一般財源	47,078	47,379	49,996			

事業概要	繁殖センターにおいて、国際的に絶滅の危機に瀕する動物や、日本産および市内産の希少動物の保全・繁殖に取り組みます。また、繁殖センターでは3動物園での展示による普及効果と平行しながら、一般展示とは隔離した場所で動物福祉に配慮し、できるだけストレスを与えない落ち着いた環境の確保を図り、繁殖、遺伝子等の調査研究を専門的に行っています。							
事業開始年度	平成11年度							
根拠法令・方針決裁等	横浜市繁殖センター規定 配偶子バンク等事業に関する協定書 平成24年12月方針決裁							
事業目的・効果 (必要性)	<p>【事業目的】</p> <p>繁殖センターは、平成11年の開所以来、国内動物園初の非公開繁殖研究専門施設として、飼育動物の繁殖メカニズムの解明やDNA解析による雌雄判別技術の開発など、本市動物園の「種の保存事業」を支える事を目的に事業を進めてきました。また、遺伝資源保存の分野では、これまでに54種の配偶子凍結保存を行い、将来の研究や種の保存に貢献するとともに（公社）日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。</p> <p>特に近年では、日本産希少動物保全事業において、ニホンライチョウの飼育繁殖技術確立および繁殖研究を推進するとともに、ミゾゴイおよびツシマヤママネコの繁殖研究や横浜市産希少種（カエル類）の飼育および研究を日本動物園水族館協会等と連携して推進しています。一方で、横浜市立動物園や日本動物園水族館協会および大学等と連携し、希少動物の人工繁殖および遺伝資源保存研究も進めています。</p> <p>【事業効果】</p> <p>種の保存研究事業については、その研究成果により当センターで飼育する希少動物及び横浜市立動物園の飼育動物の繁殖に貢献するとともに、平成25年度からは日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。また、特別公開や夏の科学スクール、大学等の講義対応や一般市民向けの見学ツアー、SNSでの情報発信など、市民に対して事業への理解と関心を深める取り組みを随時行ってきました。日本産希少動物保全事業については平成25年度から導入したスバルバルライチョウやミゾゴイの繁殖に成功するとともに、横浜市産のカエル類の飼育繁殖および生息域内での調査研究を実施しています。更に平成30年度から新たにニホンライチョウの飼育繁殖、令和3年度には市内産希少種であるツチガエルの野生復帰を目指し、元の生息地への試験放野も始めています。</p>							
根拠・データ等	<p>【飼育動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> マレーバク：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 カムリシロムク：IUCNレッドリストCR（近絶滅種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ホオアカトキ：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ニホンライチョウ：環境省レッドリスト絶滅危惧IB類(EN)、特別天然記念物、環境省希少動物保護増殖事業対象種 カグー：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表 コンゴクジャク：IUCNレッドリストVU（危急種）、EEP（欧州絶滅危惧種計画）対象種 ミゾゴイ：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種） <p style="text-align: right;">他6種</p>							
事業指標	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
繁殖動物種	単位	目標	5	5	5	5	5	5
	団体	実績	3	3				
希少動物種の 保存共同研究	単位	目標	15	15	15	15	15	15
	種	実績	17	21				
	単位	目標						
	種	実績						
事業スケジュール	令和4年8月 科学スクール開催 7～9月 日本産希少動物飼育下繁殖関連会議出席 10月 動物園技術者研究会等研究発表 特別公開 動物輸送							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称		4年度	3年度	差引(増減)	増減説明
	①	繁殖センター管理運営費	49,608	51,881	▲ 2,273	消耗品見直し等による減
	②	希少動物種の保存研究事業費	4,284	4,038	246	日本産希少動物保全事業の増
細事業合計			53,892	55,919	▲ 2,027	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	荒原 伸治	尾形 光昭	中村 浩隆

令和 4 年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費	<input checked="" type="checkbox"/> その他			
歳出予算科目	一般会計	8 款	5 項	2 目	
事業名称	希少動物海外交流事業				

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳			一般財源等	
		国	県	諸収入	市債	一般財源
令和4年度	75					75
補助事業 単独事業						0
令和3年度	860					860
増△減	△ 785	0	0	0	0	△ 785

歳出	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
予 事業費	965	75	75	860	860	860
算 市債+一般財源	965	75	75	860	860	860
決 事業費	785	0	0			
算 市債+一般財源	785	0	0			

事業概要	繁殖センターは、開所以来、海外の希少動物について現地政府との間で、生息域内保全活動の一環として、共同研究や動物交換などを通じた海外交流を行っています。							
事業開始年度	平成11年度							
根拠法令・方針決裁等	横浜市繁殖センター規定 横浜市とニューカレドニア南部州政府における野生動物に関する合意書 カムリシロムクの野生復帰に関わる西部バリ国立公園と横浜市とカムリシロムク保護協会の覚書 平成24年12月方針決裁							
事業目的・効果 (必要性)	<p>1 ニューカレドニア希少動物研究交流事業 市制100周年を契機としてはじまり、ニューカレドニア南部州政府との海外交流事業として、特に固有種である希少鳥カグーの生息域内・域外保全を目的として、共同学術研究や動物交換を行っています。当センターでの飼育繁殖で得られた研究成果は現地のカグーをはじめとする希少動物の生息域内・域外保全活動に役立てられています。</p> <p>2 カムリシロムク野生復帰事業（インドネシアとの交流事業） 平成15年度から本市とインドネシア共和国間でバリ島固有の希少鳥であるカムリシロムクの野生復帰を目的とした事業を開始し、平成16年度からJICA草の根技術協力事業の補助金対象事業として実施してきました（第1期～第4期、3度の事業更新）。現地関係機関により、当センターから送致した個体を元に繁殖させた個体の野生復帰を進めた結果、一度は野外で絶滅したと言われていたカムリシロムクが、野生下で300羽を数えるまでに生息数が回復しています。</p>							
根拠・データ等	<p>【ニューカレドニアとの動物交換実績】（過去10年） 平成31年1月：カムリシロムク雌雄各3羽、オウギバト雌雄各1羽出園 平成23年6月：カグー雌2羽入園 平成22年3月：カグー雌雄各1羽、オオミカドバト雌雄各1羽入園</p> <p>【カムリシロムクのインドネシア送致実績】 平成30年11月：15羽 平成28年3月：20羽 平成25年3月：25羽 平成22年11月：30羽 平成20年3月：20羽 平成18年1月：30羽 平成16年6月：20羽 計160羽</p>							
事業指標	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	単位	目標						
		実績						
	単位	目標						
		実績						
	単位	目標						
		実績						
事業スケジュール	通年でニューカレドニア南部州政府及びインドネシア環境林業省や関係機関と現地の生息状況についての情報共有や連絡調整を実施していきます。							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称		4年度	3年度	差引(増減)	増減説明
	①	ニューカレドニア希少動物研究交流事業	25	810	▲ 785	動物輸送の予定がないため
	②	カムリシロムク野生復帰事業	50	50	0	
細事業合計			75	860	▲ 785	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	荒原 伸治	尾形 光昭	中村 浩隆

令和 4 年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費	<input checked="" type="checkbox"/> その他			
歳出予算科目	一般会計	8 款	5 項	2 目	
事業名称	野生鳥獣対策事業				

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				一般財源等	
		国	県	手数料	その他	市債	一般財源
令和4年度	16,844		6,738	17	7		10,082
補助事業 単独事業							0
令和3年度	17,368		6,738	20	8		10,602
増△減	△ 524	0	0	△ 3	△ 1	0	△ 520

歳出	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
予 算	17,406	16,818	16,872	17,000	17,000	17,000
市債+一般財源	10,346	10,052	10,099	10,234	10,234	10,234
決 算	15,325	15,140	17,499			
市債+一般財源	9,259	9,353	11,438			

事業概要	野生鳥獣による生活被害等から安全な市民生活を確保するため、市民や団体の協力を得ながらカラスやハクビシンへの対策を実施します。また、外来生物であるアライグマ、タイワンリスについても対策を進めるとともに、捕獲罠の貸出を継続します。							
事業開始年度	平成17年度							
根拠法令・方針決裁等	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律・第3次神奈川県アライグマ防除実施計画、神奈川県鳥獣保護管理対策事業費補助金交付要綱							
事業目的・効果 (必要性)	①アライグマ・ハクビシン対策：生活被害等を受けている市民に対し、外来生物法・県防除計画に基づくアライグマの捕獲、鳥獣保護管理法に基づくハクビシンの捕獲を行い、被害の低減を図ります。 ②カラス対策：繁殖期の親カラスによる威嚇・攻撃を受けている市民に対し、原因となる巣の除去費用の一部補助、巢立ちビナの緊急捕獲を行うこと等でカラス被害の低減を図ります。 ③タイワンリス対策：被害を受けている市民に対し、鳥獣保護管理法に基づく捕獲の支援（罠の貸し出し、捕獲個体の処分）を行うことで、生息密度と被害の低減を図ります。 ④鳥獣保護管理法に係る事務等：野生鳥獣の保護及び違法な捕獲を防止するため、鳥獣保護管理法に基づく捕獲許可証の交付、飼養登録等を行います。							
根拠・データ等	根拠法令等 ・鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 ・第3次神奈川県アライグマ防除実施計画、神奈川県鳥獣保護管理対策事業費補助金交付要綱 ・アライグマ被害対策実施要綱 ・ハクビシン生活被害対策実施要綱 ・ハクビシン農業被害対策実施要綱 ・カラス生活被害対策実施要綱 ・クリハラリス被害対策実施要綱 ・横浜市高病原性鳥インフルエンザ等対応指針							
事業指標	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
市民捕獲依頼数	単位	目標	1,200	1,300	1,400	1,400	1,400	1,400
	件	実績	1,245	1,464				
アライグマ・ハクビシン捕獲数	単位	目標	700	700	850	900	900	900
	頭	実績	824	949				
鳥獣等捕獲許可数	単位	目標	2,500	2,700	3,000	3,000	3,000	3,000
	件	実績	2,604	2,896				
事業スケジュール	・アライグマ・ハクビシン対策（通年） ・カラス対策（4～8月） ・タイワンリス対策（通年） ・鳥獣保護管理法に係る業務（通年） ・その他連絡調整（通年）							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称		4年度	3年度	差引(増減)	増減説明
	①	野生鳥獣対策事業		16,844	17,368	▲ 524
	細事業合計		16,844	17,368	▲ 524	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	荒原 伸治	飯島 延矢	松岡 良樹

令和 4 年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費	<input checked="" type="checkbox"/> その他			
歳出予算科目	一般会計	8 款	5 項	2 目	
事業名称	動物園基金事業				

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				一般財源等	
		国	県	財産収入	その他	市債	一般財源
令和4年度	10,244			1	5,000		5,243
補助事業 単独事業							0
令和3年度	10,271			1	5,000		5,270
増△減	△ 27	0	0	0	0	0	△ 27

歳出	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
				令和5年度	令和6年度	令和7年度
予 算	10,502	15,401	10,301	10,244	10,244	10,244
市債+一般財源	5,500	5,400	5,300	5,243	5,243	5,243
決 算	10,166	10,090	10,048			
市債+一般財源	3,391	6,475	260			

事業概要	横浜市へのふるさと納税を基金へ積立し、海外から中大型動物の導入を行う財源とする。								
事業開始年度	平成29年度								
根拠法令・方針決裁等	ワシントン条約 (CITES)、地方税法第37条の2、地方自治法第241条、横浜市動物園基金条例								
事業目的・効果 (必要性)	生物多様性の保全への国際的な貢献と横浜市立動物園の充実を進めるために、遺伝的多様性の確保等から国際間での調整が必要となっている動物収集を、資金的な裏付けの下で着実に進めるよう、動物園に不可欠な動物の収集及びこれに附随する事業の推進に活用します。								
根拠・データ等	ワシントン条約 (CITES) や海外との調整後、中大型動物が導入可能になった際に実施。								
事業指標	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
ふるさと納税額 (動物園の充実)	単位	目標	5,000	1,500	1,500	3,500	3,500	3,500	3,500
	千円	実績	2,115	8,288					
	単位	目標							
		実績							
	単位	目標							
		実績							
事業スケジュール	・寄附金等受納 令和4年4月以降 随時受け入れ後基金へ積立								

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称		4年度	3年度	差引(増減)	増減説明
	①	動物園基金事業	10,244	10,271	▲ 27	寄附メニュー選択実績による減
	細事業合計	10,244	10,271	▲ 27		

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	荒原 伸治	澤井 利光	山本 顕